【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】平成26年12月4日(2014.12.4)

【公開番号】特開2014-203693(P2014-203693A)
【公開日】平成26年10月27日(2014.10.27)
【年通号数】公開・登録公報2014-059
【出願番号】特願2013-79436(P2013-79436)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｒ　13/518　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｒ　13/518

【手続補正書】
【提出日】平成26年8月26日(2014.8.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
複数の機器を並列した機器ユニットに設けられ、相手側コネクタと嵌合可能な機器用コネクタであって、
前記機器に個別に設けられるものであって、前記複数の機器の並列方向に沿って並列する複数の端子収容部と、
前記複数の端子収容部を一括して保持する保持部と、
前記端子収容部と前記保持部とに設けられ、互いに係合することで前記端子収容部の位置決めを図る位置決め部と、を備え、
前記位置決め部が、前記端子収容部および前記保持部のうち一方に設けられて前記端子収容部の並列方向と交差する交差方向に延びる板状の突部と、前記端子収容部および前記保持部のうち他方に設けられて前記交差方向に延びると共に前記突部が嵌り込むスリット状に形成された受部と、を備える機器用コネクタ。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
本発明は、複数の機器を並列した機器ユニットに設けられ、相手側コネクタと嵌合可能な機器用コネクタであって、前記機器に個別に設けられるものであって、前記複数の機器の並列方向に沿って並列する複数の端子収容部と、前記複数の端子収容部を一括して保持する保持部と、前記端子収容部と前記保持部とに設けられ、互いに係合することで前記端子収容部の位置決めを図る位置決め部と、を備え、前記位置決め部が、前記端子収容部および前記保持部のうち一方に設けられて前記端子収容部の並列方向と交差する交差方向に延びる板状の突部と、前記端子収容部および前記保持部のうち他方に設けられて前記交差方向に延びると共に前記突部が嵌り込むスリット状に形成された受部と、を備えるものである。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
このような構成によれば、複数の端子収容部の相対的な位置ずれにより、この端子収容部が相手側コネクタと干渉することが回避され、機器用コネクタと相手側コネクタとの嵌合が円滑に行われる。
ここで、複数の端子収容部は、各機器に個別に設けられて、複数の機器の並列方向に沿って並列するものであるから、特に、隣り合う端子収容部間のピッチにバラツキが生じやすい。このため、位置決め部を、端子収容部の並列方向と交差方向に延びる突部と、この突部が嵌まり込む受部とで構成することとした。このような構成によれば、複数の端子収容部の並列方向についての位置決めを確実に行うことができ、機器用コネクタと相手側コネクタとの嵌合を円滑に行わせることができる。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３６】
（２）上記実施形態では、位置決め部は位置決め板１８と位置決め凹部２５であったが、参考例として、位置決め部の形状に特に制限はなく、互いに係合することで位置決めが図られるものであればよい。